

令和 5 年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4 年間の目標 (令和 2 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 18 日実施)	総合評価（ 3 月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	(3 月 13 日実施)	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学習意欲や進路希望を満たす教育課程を編成すると共に、組織的な授業改善に取組み「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 ②積極的に ICT を取り入れ、基礎学力の定着と発展的な学習支援を推進する。 ③地域の教育力を活用し、豊かな人間性や社会性を培う。	①新教育課程の 3 学年が、生徒の進路実現の現状に対応しているか検証する。 ② I C T を利活用した組織的な授業改善を実施する。 ②教員が相互に授業見学し教材や手法を共有する。 ③地域の方を講師に迎えて講演会等を実施する。	①新教育課程の 3 学年を検証し、必要に応じで見直しを行う。 ②研究授業の前に教科会を実施するなどして組織的な授業改善を推進する。 ②授業見学期間を設定し教員相互の授業見学を促進する。 ③地域の人材を活用できる講演テーマを検討・調整し、講演会を実施する。	①現 2 年生の科目選択が円滑に実施できたか。 ②授業改善、研究授業に向けた教科会を実施し、組織的に授業改善に取組めたか。 ②授業見学の回数が昨年度より増えたか。 ③地域の方を講師に迎えた講演会等を実施できたか。	①各大学が必要とする高校での履修科目の変化に対応し、数学 C を新 3 年生の文理系選択者が履修できるように教育課程の調整を行った。 ② 2 回の事前教科会後の I C T 利活用授業研究推進校公開研究授業の実施、授業見学週間等での教員間の授業力の共有等を実施し、県の優秀授業実践教員表彰を受賞する職員も輩出した。 ②授業見学の回数は報告済が 45 件で昨年度 56 件より減少した。 ③伊勢原市健康づくり課の方による食育講座や骨密度測定、証券会社の方による金融講座を実施した。	①年次進行で進めてきた新教育課程への対応は今年度で終了するが、生徒の進路希望と大学の受験科目等を注視し、課題に迅速に対応できるよう努めていく。 ②引き続き、授業力の向上に向けた教材の共有や教授法向上のきっかけを提供するとともに、グループ間連携を促進し教育環境の改善に取り組んでいく。 ②授業見学を促すとともに、授業見学報告の提出しやすい方法を検討していく。 ③引き続き、地域の方の力を活用できるよう機会を検討していく。	①新教育課程の完成年度に向けて準備が進んでおり評価できる。引き続き生徒が不利益を被らないように、必要に応じて改善をお願いしたい。 また、学校現場での A I の活用についても議論を進めてほしい。 ②③授業の改善や地域教育力の導入に努めてほしい。	①新教育課程の対応が終了したが、受験情報等を注視し適切に対応したい。 ②組織的な授業改善や教員間の素材・教授法について、成果は上がっているが、さらに推進したい。 ③地域の方を講師に活用できたが、さらに人数を増やしたい。	①生徒・保護者に必要な情報を十分に提供するとともに、各家庭で進路情報の収集を促し進路実現を目指す。 ②職員の入れ替わりが多数あるが、継続性のある I C T 利活用を実現する。 ③地域の人材の発掘・有効活用を引き続き模索する。
2	生徒指導 ・支援	①共生教育の実現をめざし、高い人権意識を醸成する。 ②全ての教育活動に意欲的に取組むよう支援し、自己肯定感を高揚させると共に、協働による課題解決力を育成する。 ③教育相談体制を充実させ、安心・安全な学校生活を実現するとともに、共生教育に注力し多様性を受容する心を育成する。	①規律ある落ち着いた学習環境を整備し、一人ひとりが安心して安全に学校生活を送ることができるような様々な視点を持つて整える。 ②生徒同士が協働する中で、違いを個性として認め合う人権意識、また自己肯定感を育む。 ③多様な生徒に対応できる相談体制・各種機関との連携体制を築く。	①研修会や講演会、動画配信等の実施により、定期的に自己を振り返る機会を作る。また、生徒と教員とのコミュニケーションをより大切にし、充実した学校生活に繋げる。 ②生徒が主体的に行事運営できるよう支援し、実践学習（企画・運営・改善）をより深められるよう促す。 ③カウンセリング等の研修を通して、教員全体の教育相談スキルの向上を行う。	①学校生活アンケートから、いじめ行為やトラブルの発件数を把握し、前年度に比べ減少させることができたか。また、問題行動等の発生が減少したか。 ②行事後のアンケート等の実施で、教育活動に生徒の主体的な参加が確認できたか。 ③相談支援を必要とする生徒に対し、スムーズな連携体制により解決や、よりよい方向に進むことができたか。	①学校生活が通常に戻り、日々の中で、教員から直接話をしたり、講演会を行ったりすることができ、自己を振り返る機会を多く作ることができた。さらに、面談期間を利用して、友人同士のトラブルの早期発見や悩んでいることの解消に向けた支援に繋がれた。いじめ行為やトラブルの発件数は、昨年度と同程度であったが、早期発見から問題の早期解決に繋げることができた。 ②明鏡祭において、積極的に参加できたと感じている生徒は 90%を超えていた。 ③ S C や S S W に関する職員研修を行い、生徒に有効活用できるよう職員のスキルを向上させることができた。	①学校生活に関わる指導および授業での指導の両場面において、生徒とのコミュニケーションをより大切にし、継続的な状況把握およびいじめ防止、トラブル防止に努める。また交通事故防止や S N S の適切な利用については、日頃から教員による助言等を行っていく。時代に合わせ、必要な研修や講習を教員や生徒向けに実施する。 ②生徒一人ひとりが自分のやり方で前向きに行事に参加できるよう引き続き支援を行う。 ③面談期間を利用して、効果的な相談支援を行う。 S C および S S W を有効活用し、連携した体制を構築して、生徒支援を行う。	①日頃の生徒状況観察等による早期発見ができたことは評価できる。トラブル発件数が減少するよう引き続き努力をお願いしたい。 ②行事や部活動で生徒が活躍し、成果を上げているのは評価できる。引き続き支援をお願いしたい。 ③ S C、S S W による研修を行うなど努力の跡が見られる。生徒を取巻く状況は日々変化するので努力を継続してほしい。	①生徒向け研修や様々な場面で声掛けを多く行うことで、生徒の学校生活に対する意識が高めることができた。これは、落ち着いて授業を受けられる環境や安心して過ごせる学校であることに繋がった。 ②生徒が主体的に学校行事を運営、参加することができた。引き続き支援していきたい。 ③面談期間を利用して、生徒の悩みや不安の把握ができ、 S C や S S W との効果的な連携ができた。	①安全で安心して通える学校であることを継続できるよう、生徒とのコミュニケーションを大切にする。トラブル未然防止について、教職員の意識向上を目指した研修を行う。 ②丁寧に生徒の声を拾い、生徒一人ひとりがより積極的に活動できるよう体制を整える。 ③教育相談体制を整え、より生徒が相談しやすい環境を作る。
3	進路指導 ・支援	①多様化する進路希望に対応した進路支援体制を再構築する。 ②段階的なキャリア教育を体系化し、自らの進路を主体的に考え、行動できる力を育む。 ③校内外での様々な体験を通じて豊かな人間性を育み、社会で必要とされる人材を輩出する。	①上級学校への進学を中心に、多様な生徒の個々に合わせた進路実現に向けた環境を整える。 ②進路に関する情報提供に ICT を活用し、わかりやすい情報提供を目指す。 ③インターンシップ等の社会体験学習を通して生徒の進路実現につなげる。	①自習室の活用など、自学自習を行うための意識啓発と共に、スタディサプリの活用数を増やす仕組み作りをする。 ② Classroom を活用し、進路関係の情報を円滑に生徒に周知すると共に、校内に進路情報を視覚化する場所を増やす。 ③生徒の進路理解を深めるため、仕事の学び場やインターンシップといった体験への参加の場を開拓し、希望生徒に提供する。	①自習室の利用状況が増えたか。 ①スタディサプリの利用数が増えたか。 ②全生徒が各学年の Classroom に登録し、生徒が閲覧できる態勢を整えることができたか。 ②進路情報を生徒の目が届きやすい場所に設置することができたか。 ③インターンシップや社会体験活動を行った生徒が増えたか。	①自習室の利用状況は昨年とほぼ変わらない形となった。 ①スタディサプリの利用数は昨年度とほぼ同数であった。 ②全生徒が各学年の Classroom に登録し、生徒が閲覧できる態勢を整えることができた。 ②渡り廊下に進路情報を置く場所を作り、掲示する掲示板を 3 学年廊下に増設した。 ③インターンシップや社会体験活動を行った生徒数は昨年と同程度であった。	①自習室に Chromebook を配置することで進路指導をしやすい環境を作ることができた。 ①講演会や課題配信のあと利用数が増えるが、さらに増やすために授業と連携していく。 ② Classroom にて進路情報の閲覧が容易になったが、その活用方法をさらに深めていく。 ②進路情報が全学年で見えるように改善した。今後さらに見やすい配置を模索する。 ③インターンシップについて地域との連携を深めて実施できるようにしていく。	①自学自習に向けた環境整備については引き続きお願いしたい。 ②生徒への進路情報の提供状況は改善しているが、保護者への情報提供や不安への対応をお願いしたい。 ③インターンシップ等への支援も引き続きお願いしたい。	①環境整備は進んだが、自学自習を生徒に習慣づけることが必要である。 ②保護者への情報提供について、どのような手段があるか模索する必要がある。 ③インターンシップは実施できたが、申し込み時のハードルが高く苦慮した。校内体制の改善を検討する必要がある。	①自習室の整備などの環境改善だけでなく、自学の意識を高める取り組みをしたい。 ②保護者への情報提供について、情報提供するメディアの検討を進める。 ③地域の企業とのインターンシップ連携を深める。

	視点	4 年間の目標 (令和 2 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 18 日実施)	総合評価 (3 月 31 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	(3 月 13 日実施)	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①地域との協働・交流により、多世代間交流を促進し、社会性を育む。 ②学校情報の発信により本校のへの理解を深め、「行きたくなる（通わせたい）学校」となるよう創意・工夫する。 ③コミュニティスクールを活用し、教育内容の充実を図るとともに、学校外への発信や教育活動の共有を推進する。	①地域活動への積極的な参加、地域住民との連携を促し、地域の一翼を担う機会を増やす。 ②引き続き、生徒主体の学校説明会を実施するとともに、伊勢原高校の魅力を発信していく。 ③学校運営協議会での指摘事項を年度内に改善していく。	①地域清掃やボランティア活動、共同防災訓練など積極的な参加を促す。 ②引き続き、生徒主体の学校説明会を実施するとともに、様々な機会を利用して本校の魅力を発信する。 ③1 回目、2 回目の学校運営協議会での指摘事項等の改善を3 回目の会議で報告する。	①地域活動を通して、地域社会の一員としての自覚をもつことができたか。 ②生徒主体の学校説明会ができたか。また、一般入試の志願倍率が 1.1 倍（志願変更前）を超えたか。 ③学校運営協議会での指摘事項を年度内に改善できたか。	①すべての学年で地域貢献活動を行うことができた。 ②学校説明会は生徒中心で行い好評であった。学校説明会には3 回合計 868 家庭 1,816 人、部活動体験には2 日間で185 名の参加があった。また、志願変更前の志願倍率は1.53 倍（定員 229 人、志願者 350 人）、志願変更後の最終倍率は1.20 倍（志願者 275 人）であった。 ③地域貢献（交流）にかかわるご指摘や校地周囲の環境整備にかかるご指摘をいただき、直ちに対応し改善することができた。	①清掃活動以外の地域貢献活動等も模索しながら、すべての生徒が地域社会の一員としての自覚をもつ機会を作る。 ②高い支持をいただいていることに慢心せず、生徒と共にさらに良い学校説明会を目指していく。 ③引き続き、課題にスピード感を持って対応できる校内体制整備を進めていく。	①地域清掃は非常にありがたい。継続していただきながら別の活動の検討もお願いしたい。 ②高倍率で、「通いたい、通わせたい学校」であることは評価できる。伊勢原高校の「ブランド力」が高まったように感じる。引き続き努力をお願いしたい。また、地域との協働がさらに進むよう、学校と地域等が連絡を取り合い、協働の機会を増やせるよう努力をお願いしたい。	①従来と同様の地域貢献活動は全校で実施できたが、生徒状況の변容に即した新たな形の地域貢献活動について検討する。 ②受検生や保護者の支持を得られるような情報発信を目指し、職員などと連絡を取り合って協働の機会を拡大する。	①清掃活動以外にも地域に貢献できることを模索していく。 ②受検生や保護者が高等学校に求めることを知り、本校の魅力づくりにつなげ、効果的に発信していく方法を模索したい。 ③第三者評価を真摯に受け止め組織的に対処していく。
5	学校管理 学校運営	①教育公務員としての意識向上を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。組織的なチェック体制を整える。 ②有事の際は、避難所としての機能を果たすため、地域と協力して防災活動を行い、生徒の防災意識の向上を図る。	①教育公務員としての意識向上を図るため、過去2 年間の実績を把握・分析し改善策を策定し、実施する。 ②学校内の防災体制の整備を一層進め、地域との連携に配慮し実行する防災教育を推進する。	①校内電子掲示板を活用して不祥事防止アンケートを実施し、回答のチェックを即時できるよう変更し教育公務員としての自覚を高める。また、個人情報の管理手順、成績処理マニュアル、入学者選抜マニュアル等、組織的なチェック体制を整え、改善する。 ②地域、自治体と連携・協働した防災訓練を実施する。地震や洪水などの視点を再整備し、防災備品の管理更新・備蓄促進を行い、防災マニュアルの定期的な見直しを行う。	①不祥事防止アンケートの回収率100%を引き続き目標とする。当事者意識が高まったか（Googleアンケートの利用）。また、ICT 利活用推進校として、情報管理等のマニュアル化・一般化の改善ができたか。 ②職員・生徒・地域と授業や学校行事等を活用し防災研修を実施できたか。また、地震や洪水に備えた防災マニュアルの見直し、変更ができたか。	①不祥事防止アンケートを Google FORM を利用して実施した。回答率の平均は75%、最高は95%であった。 ①出欠連絡管理に、Teams を利用し、朝の忙しい時間に情報の共有を確実にし、事故防止につなげることができた。 ②消防署と連携した防災訓練を4 年ぶりに実施できた。 ②防災備品の在庫の確認を行い、基本的な物品がそろっていることは確認した。さらに追加で必要と思われる段ボールベッドや携帯用アクセスポイントを購入した。	①教員の不祥事が多い分野（おいせつ、ハラスメント、会計等）の防止対策に重点を置きつつ、不祥事の根絶に向けた取り組みを進めていく。 ②地域自治会を巻き込んだ防災訓練はできていないので、実施できるよう取り組む。 ②防災対策や避難所対策に終わりはないので、さらに必要な訓練や物品の備蓄に努めていく。	①不祥事は、無いことが当たり前であるが、なかなか難しい。引き続き不祥事ゼロを維持できるようお願いしたい。 ②生徒の防災意識の醸成と災害時の安全確保のため、実践的な防災教育をお願いしたい。また、避難所として地域のことも考慮した備蓄をしていただきありがたい。	①不祥事防止への取り組みは職員に浸透しているが、気を緩めずに継続していく必要がある。 ②コロナ前水準の防災訓練実施や防災意識の醸成、備品等の整備を引き続き推進する必要がある。	①②不祥事防止や防災対策に終わりはない。新たな知見も取り入れながら向上させていく。